

若い力が若い力を育て、好循環で地域まちを創る 〜元氣あふれる、たのもしいたくましい人財によるまちづくり〜

NPOおのみち寺子屋 理事長 柿本 和彦



人間力育成塾とは

毎年10月に入ると、一年間の活動の集大成として、同志を募集する「タスキつなぎ」が始まります。

一年間のスパンで実施される「人間力育成塾」では、塾生である大学生がボスターやチラシを作成し、学校で説明会を開くなどして、肩に掛かった目に見えないタスキをつないでいくのです。

広島県を中心とした大学から集まった学生70人余りが、心を鍛え、周りにある全てのものと共生し、使命感を持って謙虚に積極的に行動するための資質や能力を開発することにより、一人ひとりの仕合わせな人生を演出し、引いては地域の発展に寄与する事業、それが人間力育成塾です。

愛と志で全員完歩

1月に開講する人間力育成塾のメイン事業は「おのみち100km徒歩の旅」です。

小学4年生

から6年生まで100名の子どもたちが、8月の猛暑の中、学生スタッフのサポートにより、尾道市内100kmの道のりを4泊5日掛けて歩き抜きます。



おのみち100km徒歩の旅(尾道水道を臨む)

親元を離れ、体育館に宿泊まりし、テレビもないエアコンもない5日間、現代を生きる子どもたちにとって大変過酷な旅で、非日常の生活は心を鍛える体験となり、ゴール時の達成感には「やれば出来る」という自信にもなります。

また、初めて知り合った子どもたち同士が5日間の旅を通じて人との関わりの素晴らしさにも気づいてくれます。

通称「おの100」は、昨年15回の開催を数え、今では、参加小学生がボラン

ティア研修生(中学生)として活躍し、高校や地元の大学に進んだ学生がサポーター役として戻ってきてくれるようになり、地域の風物詩にもなりました。

企業が求める人財育成

「おの100」が表の顔とすれば、「おの100リーダー養成」をはじめとした一年間の研修は裏の顔でしょう。

企業が求める人財育成として、「おの100」の準備だけでなく、コミュニケーション能力やコミュニケーション能力、プレゼン

テーション能力の開発を念頭に、1月から4月までは毎月2回、5月からは新たな同志を加えて毎週、そして、9月からは毎月1回の



おの100リーダー養成

研修を実施します。

研修での学びや気づきを日常生活に置き換えて考えることを徹底し、『生活即研修、研修即生活』を実践しながら、何をやったかではなく、何を身に付けたかを確認し、自らの成長に努めてもらっています。

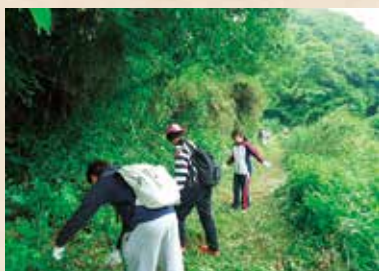
実体験のステージ

一年間の研修と並行して、学生スタッフは、『ふるさと魅力発信隊』として、地域の行事に参画したり、自分たちの活動を支えてくださっている地域に恩返しをしたり、創造力や発信力、規律性などを身に付ける場として、さまざまなステージに挑戦し実体験を得ています。

例えば、4年前から『おの100』のルートで石見銀山街道の一部を歩くことになりました。

昔ながらの状況が残る箇所ですが、手入れをしなれば、直ぐに雑草が背丈以上に成長します。

そのような街道を地域の方が整備されており、学生も数回ですが一緒に整備を



ふるさと魅力発信隊(石見銀山街道の整備)

手伝わせていただいています。

生まれた時から物質的に豊かな時代に育ち、また、物心ついた時期にはスマートフォンが普及し、人との関わり方を苦手とするなど、生きる力が欠如した学生が増えてきました。

『ふるさと魅力発信隊』は、そうした課題を解決しながら、地域のお役に立つための事業です。

大学生による学習支援

3年前から、小学4年生から中学3年生を対象に、冬休みと春休みを利用して、『寺子屋おのみち』を開催しています。

『学びの機会』として4日間、『体験の機会』として1日、そして、『仕合わせ体験』がこの事業の柱です。

『学びの機会』では、『教えて初めて教わったことが身に付く』を実践するために、大学生が企画・運営等、すべてを仕切り、『出来た！楽しい！やってみよう！』をスローガンに、児童生徒の学習をサポートすると共にチャレンジ精神を育んでいます。

そして、5日目の『体験の機会』では、全員で10メートルの巻き寿司を作ります。

まさに、『やれば出来る』を体感してもらおう仕掛けです。

子どもたちが帰った後、大学生への

『仕合わせ体験』として、地元で活躍されている方の講話をお聴きし、『三方良し』を実現しています。



体験の機会(巻き寿司作り)

学生スタッフが集まってくる仕掛け

『良いモノを創れば、学生は集まってきます！』

人間力育成塾では、学生への動機づけに注力し、スタッフ規定に沿って、本当の優しさで学生を育んでいます。

『ためになる』『成長できる』『感動する』『プログラムがリピーターを生むと信じて、これからもWin・Winの関係』によるひとつくり・まちづくりが出来るよう精進して参ります。